

平成23年度ITC中部総会・講演会が、平成23年6月4日(土)にウィング愛知1012会議室にて出席者102名というほぼ満員の状況で開催されました。

矢口理事長による開会挨拶・総会に引き続き、基調講演として中部経済産業局 情報政策課 山田課長補佐より「中部経済産業局の情報施策について」、ITコーディネータ協会 中塚部長からは、「ITコーディネータ協会の2011年度の活動方向とITコーディネータへの期待」についてご講演をいただきました。特別講演として、ESD21顧問(理事) 鈴木明夫氏より「新・新興国ミャンマーの最新事情」、ITC中部理事(中電CTI) 磯部秀敏氏からは「リスクマネジメントを踏まえた事業継続計画(BCP)」をご講演いただきました。

総会においては、矢口理事長が議長として選任され、その上で、すべての議案が、原案通り承認可決されました。

各委員会の活動報告の後、新しく開催されるビジョン検討会議の紹介があり、今後のITC中部のあり方を検討する場として開催されることでした。活発な意見が交換されることを期待しております。

鈴木氏の講演では、元気のいいアジアの中でもミャンマーは、日本企業は未だ51社ほどしか進出しておらず、対日感情もよく、大手以外でもビジネスチャンスがあるというお話をいただきました。チャンスがあれば、一度訪問してみたいと思いました。磯部氏の講演では、BCPと



ITC中部 総会風景

リスクマネジメントについて、今回の震災のことも交えてお話をいただき、リスクに対する事前対策はもちろんのこと、残存リスク状況により、事後対応計画も策定することが重要であると認識しました。

最後になりましたが、このたびの東日本大震災により被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。皆様の安全と一日も早い復旧をお祈りいたします。

(ITC中部 ビジネススキルアップ委員会 木原 光章)

## 第10回架け橋会ゴルフコンペ

2011年6月11日(土)ITC中部広報委員会主催の第10回架け橋会ゴルフコンペが、岐阜県可児郡のサンクラシックゴルフクラブで開催されました。当日は、朝から小雨が降っており、霧に悩まされる場面もありましたが、昼からは晴れとなり、常連の方々を中心に参加者12名で、和気あいあいと楽しくプレーすることができました。

架け橋会ゴルフコンペは、毎回ダブルペリア方式で実施していますので、あがってみないとわからないという楽しさがあります。優勝・ベストグロスは、グロス91/ネット71.8で、堂本さんでした。全体の平均スコアは、グロス103.6/ネット78.3という結果で、実力が均衡して接戦となりました。

賞品は今回も参加者全員から持ち寄ってもらった品物を成績上位者から順に好きなものを選んで頂きました。賞品には、ご自宅の畑で取れた新鮮な野菜、ベルト、お菓子、お酒等があり、大変好評で、皆さんに喜んでもらえました。今後も参加者全員による賞品の持ち寄りを続けていきたいと思っております。



ゴルフ大会

架け橋会ゴルフコンペは、ゴルフを通じてITC中部の親睦を図る目的で年2回開催しており、スコアに拘らず、和やかな雰囲気皆さん楽しくプレーしています。次回は10月頃を予定していますので、是非多くの皆様のご参加をお待ちしております。

(ITC中部 近藤 慈伸)

## 事務局だより

皆さん、こんにちは。今年度よりITC中部の事務局次長を拝命した山本です。皆さんのITC活動の一助となるように精進してまいります。

さて、去る6月4日土曜日にITC中部の総会・講演会が無事開催され、数多くのITCの方に参加いただきました。日頃、合わない方たちの顔を見ながら、もつともつとITCを有名にしていきたいと思った次第です。

震災以降、とかくクラウドという言葉を目にする機会が増えました。情報をクラウド上に配置することで地理的な災害に対応が可能というのが大きな理由のようです。そんなクラウドを中小企業が導入する際には、当然ITCの活躍が必要です。どんなクラウドサービスを使えばいいのか、導入計画から活用支援まで幅広いサービスをITCは提供できると思っております。

お客様を真の経営革新へと導く最初の一步は是非ITCの手によってであってほしいと願う今日この頃です。個人では大変は仕事でもITC中部を中心としたITCの輪で解決策を見つけることができると思っています。お客様先に行って話をすればするほど、ITCの必要性を感じていただけるようになってきました。これもまた、時代のなせる業だと思えます。お客様だけでは判断できないITに対する適切な助言と支援を提供できるのはITCが最も得意とする分野です。皆さん一緒にITCを盛り上げていきましょう。

(ITC中部事務局 山本 健太)

# 架け橋

KAKEHASHI

## 広報委員会秋山新委員長挨拶

まず冒頭に、このたびの東日本大震災により被災された皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

本年度より森田委員長の後任として、ITC中部広報委員会の委員長を拝命させていただきました秋山です。また同時にITC中部の理事にも就任させていただきました。

2006年にITコーディネータの資格を取得して5年足らずでこのような大役を仰せつかり身の引き締まる思いです。微力ではありますがITC中部の発展のために尽力させて頂く所存ですので、よろしくお願い致します。

昨今ITコーディネータになる人の数も減少しており、ITコーディネータの資格も岐路に立たされていると感じています。しかしITコーディネータの理念である「経営者とITベンダーの架け橋」としての役割が不要になった訳ではなく、これからは必要となる人材であると肌で感じております。ITコーディネータの有効活用の



ITC中部広報委員長 秋山剛 氏

ためにも今後ITC中部の一員として各種企画や広報活動に取り組んでいきたいと思っております。

本号では「支援機関特集」として各支援機関の皆様にご寄稿を頂きました。この場をお借りしてお礼を申し上げますとともに、ITC中部の活動に対するご理解とご支援を賜りたいと存じます。

(ITC中部 広報委員長・理事 秋山 剛)

## 特定非営利活動法人

## ITC中部

<http://www.itc-chubu.jp/>

## 支援機関特集



## 目次

広報委員会  
秋山新委員長挨拶 1

クラウドコンピューティングを  
利活用したIT経営の  
推進について 1

ITC中部の皆様とともに 2

企業家と  
ITコーディネータ 2

東日本大震災を  
経験して 3

東日本大震災  
災害ボランティア活動を  
終えて 3

ITC中部  
ビズアップ委員会 4

第10回架け橋会  
ゴルフコンペ 4

事務局だより 4

## クラウドコンピューティングを利活用したIT経営の推進について

近年、クラウドコンピューティングを利活用した大容量情報の蓄積・分析等による新たな価値を提供するサービス等が急速に普及してきており、今後も次世代情報処理基盤としてクラウドコンピューティングを利活用したビジネス向けのサービスが拡大していくものと予想されています。

一方、急速に進展するクラウドコンピューティングによる情報技術環境の変化は、情報サービス産業の構造変化をもたらすものと推測され、特にこれまで大手ITベンダからの受託開発を主流としてきた中小ベンダにおいては、今後クラウドサービス等に対応したビジネスモデルへの変革も求められております。

こうした中で中部経済産業局情報政策課においては、経済性かつ利便性の高いクラウドコンピューティングの利活用を軸に、地域の中小企業のIT利活用を促進するための環境整備や地域ITベンダのIT供給力強化を支援する「中部地域中小企業利活用基盤整備事業」を実施します。

本事業では、①中小企業のクラウド利活用促進のための調査、②ITベンダ等がクラウドサービス提供に必要な技術力や企画力向上を図る研修、③中小企業のIT経営成功事例等の紹介、④IT関係機関、中小企業支援機関や行政機関等との情報共有、⑤研究会活動を通じたクラウドによるビジネスモデル構築、等を展開してまいります。



中部経済産業局情報政策課の皆様  
(右上が筆者の杉山益美様)

本事業を通じて、中小企業のIT経営の更なるレベルアップと、地域ものづくり産業等の競争力強化を図ってまいります。そのためには、経営とITの専門的な知識を有するITコーディネータが、ユーザ企業の強み、弱みの的確な分析に基づき、取り組むべき企業改革や業務改革を明らかにし、経営戦略に沿った効果的なIT導入計画の策定を支援するとともに、その実現をサポートしていくことが期待されます。今後、クラウド型ITサービス等の急速な拡大が見込まれる中で、企業にとって真に効率的なIT経営を実現するためには、地域企業に密着したコンサルを行うITコーディネータの役割はますます増大すると考えております。

ITコーディネータの皆様が、当地域におけるIT経営推進の牽引役を担われ、数多くのIT経営の成功企業を創出されることを期待しております。

(ITC中部 中部経済産業局情報政策課長 杉山 益美)

## ITC中部の皆様とともに

皆さん、はじめまして。ITC中部様とは昨年より相互会員入会をさせていただいております。社団法人中部産業連盟：情報セキュリティ監査センターの深川と申します。経済産業省所管の公益法人とうことで、ITCの皆様とは多少趣を異にするかもしれませんが、中産連（略称）会員企業数現在約800社のうち、かなりの比率で製造業が占める中、私共はここ3年、特に情報系事業にも積極的に取り組んでまいりました。

私の所属する部署は情報セキュリティ監査センターの名称どおり「情報セキュリティマネジメント」の必要性を普及するタスクを背負っておりますが、昨今ではクラウドの台頭によるクラウドセキュリティへの要求変化であったり、あるいは利活用レベルにおいてはクラウドサービス導入を検討する企業に対しての統合サービス（システム移行時のマイグレーション、セキュリティ対策、開発・販売の支援サービス等）、またベンダ視点にとらわれない総合的、中立的なクラウドサービスプランニングが出来る人材の引き合い等々、私共は高度IT人材のニーズが益々増加している事態に直面してまいりました。

中でもITCの資格者を含むクラウドワークショップ（研究会）を通じての人材育成、米国やアジア地域への最先端クラウド視察団派遣（写真）、ITSSを活用した高度化人材育成研修などの開催を通じて、ITC中部の会員の皆様とお会いする機会も昨日増しに多くなりました。本当に嬉しい限りです。



米国クラウド先進企業視察団  
（セールスフォース本社にて）

今後も中産連は、ITC中部様とは相互会員であること以上に、例えば目的を同じくしたコンサルティングを通じた経営改革支援や業務改善、IT効率化提案を協同で行なうなど、更なる具体的な連携を図りたく思っております。

また、近いうちにはスキルを同じくされた資格者の集う情報交換会や定期的な勉強会、中産連主催セミナーへの優待参加など、プレミアムとしての活動クラブを発足させるべく準備を進めておりますので、皆さん、是非ご期待を!!

（社団法人中部産業連盟 深川 晃利）

## 起業家とITコーディネータ

愛知県の「あいちベンチャーハウス」という、ビジネスインキュベータで、IT関連業務を主として起業された方々を支援することを、この8年間携わってきましたが、その時々でITコーディネータの方には関わっていただいております。

最初に入居希望者に対して、書類および面談をして審査をするわけですが、コーディネータの方にも加わっていただいております。もとよりIT業務を営む企業しか入居できませんので、そのビジネスモデルの判断や、同時に経営者としての資質が備わっていないと入居は出来ません。その判断をユーザ・ベンダー両方分かっていただいているコーディネータの存在は大きなものと感じています。

その後3年間（最長5年間）は、当インキュベータで、自身の考えているビジネスモデルを実践できるための実力をつけるため、起業家は切磋琢磨されています。

例えば営業先の開拓もその一つです。会社勤めをやめたのち、自身の会社として活動をし始めると、今までの顧客が必ずしも自社の客先として残ってくれるわけでもなく、否応なく新規開拓をせざるを得ません。そういう際に、公的な機関に居られるITコーディネータの方にも相談をさせていただき、具体的な営業展開の仕方、考え方、また実際の営業同行など、顧客への新たな接し方を、起業家自身で身につけてもらいます。これも顧客・営業両方の気持ちが分かるITコーディネータならではのアドバイスがいただけると感じております。



あいちベンチャーハウス  
財団法人人工知能研究振興財団  
JBIA-Senior IM 中野 喜之 様

また上手く自社技術とシンクロする場合、フォームが決まっただけ、応募しやすいのが国の助成金への応募ですが、自社の企業を飛躍させるための一手段としては有効なものと考えます。ユーザー側へのアドバイスも含めて総合的な観点からITコーディネータの助言は、必須のものと思えます。

今後も様々な場面での活躍を期待します。

（財団法人人工知能研究振興財団 JBIA-Senior IM 中野喜之）

## 東日本大震災を経験して

3月11日、仙台を震度6強の地震が襲いました。仙台市街は津波の被害は免れましたが、交通・通信・ライフライン・建物に大きな被害が出ました。私は自社の情報システム部門の長として、自社の仙台オフィスで会議を行っていました。地震発生により、オフィスはカクテルを作るシェーカーの中にいるような極めて激しい揺れに見舞われ、3分間が永遠と感じられるようななかで、壁に固定のキャビネットも倒壊し、机の上の物は悉く落下し、会議室の机が動き回るのに挟まれないようしがみついているのがやっとという状況でした。

揺れが収まった後、直ぐに部下の安否を確認し、オフィス内は更なる倒壊の危険性があるため、避難・帰宅の指示を出しました。仙台は停電、全ての交通・通信手段の遮断という状況の中、私自身も激しい雪の中、15Kmの帰り道を歩いて帰宅しました。自宅のある多賀城に近づくと道が津波により冠水しており、それ以上進めなくなりました。寒さが厳しかったので、水の中を瓦礫を乗り越え進んでみましたが、真っ暗で危険だったため引き返し、大きく迂回道を通って21時半ごろに自宅にたどり着きました。

私の会社では、BCPを策定しており東京の事業所と仙台の本社でシステムを2重化していましたが、様々な不備や想定外の事象により、当日と土曜の2日間はシステムが全面停止状態でした。しかし、仙台本社のシステムの耐震強化が功を奏し、停電から回復の後は全てのシステムが無事に再起動できました。今回の災害の規模は想定外でしたが、各種の問題はBCPを策定後、リハーサルやトレーニングなどの検証により抽出できるものが多かったように思います。大事なものは、災害規模の想定よりもトレーニングなどにより色々な状況に向けて自律的に判断できる能力を養うことではないでしょうか。心の準備ができていれば、想定外のことにも対処できるし、そもそも想定自

体がある仮定や前提を必要とする以上、想定自体に意味があるのではなく、「いかに対処する能力を上げるか」が重要であるということが良くわかった震災体験でした。

（ITCみやぎ 庄司貞雄）



ITCみやぎ 庄司貞雄 様



オフィスの被災状況

## 東日本大震災 災害ボランティア活動を終えて

5月5日午後6時、静岡県ボランティア協会に23名の参加者が集まり、オリエンテーションが始まった。参加者は男性17名、女性6名、年齢は19歳から72歳。職業は自治体職員、高校教師、全国系組員、会社員、建設作業員、芸能プロ経営者、そして主婦と様々である。\*ピプスが配布され午後7時岩手県の遠野市に向けて静岡市からボランティアバスが出発した。\*ピプス：区別をつけるためにユニホームなどの上に着るベスト状のもの

活動拠点の遠野まごころ寮には翌朝7時に到着。遠野物語（柳田国男著）で有名なこの里山は桜がちょうど満開であった。この寮の2階30畳敷きの大部屋で20名くらいが寝起きし、ここからボランティアバスで釜石、大槌町などの被災地へ向かうのである。

ボランティア活動の3日間を大槌保育園の復旧作業に費やした。保育園は津波の被害に遭った。1階の軒下まで浸水があり、園児が9名亡くなった。空き地に自動車は何台もひっくり返り、その現実離れた風景が津波の激しさを物語っていた。1日目のボランティア活動は校庭の泥出し。津波で運ばれた汚泥を元の校庭の土色が出るまで削り取るのである。震災から2ヵ月たち土は大変固い。2日目は床掃除。床板の目地にまで泥が入り込みデッキブラシで水洗いの後モップで拭き取る作業である。何度拭いても泥が床板からしみ出てきれいなにならない。3日目は床下の泥水の排出作業である。床下には悪臭が発生しているため危険な作業である。ポンプは水深が浅いため排



ボランティア参加のみなさま

水がうまくできない。それでもどうにか3日間の復旧作業が終了園長先生から感謝の言葉をいただいた。厚労省の検査の後、保育園が再開でき、校庭に園児の遊び声が戻ることを期待したい。

大槌町は震災の死者・不明者が1,724人であると発表している（震災前の人口は16,516人）。この町に住んでいる多くの方が血縁者、知人そして家財をなくされている。この方々の苦しみにボランティア活動を通じて少しでも寄り添うことができれば、と思う。

（ITC中部 溝口 光武）